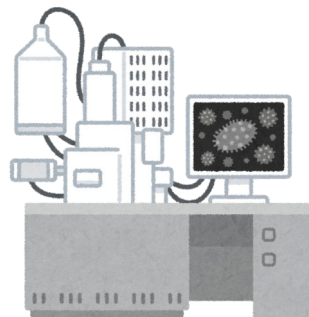


図書館サイエンス夜話 とは

サイエンスカフェとはもともと科学者や技術者と市民が科学の話をするカフェのこと。1998年にイギリスで始まったとされています。現在では、特に飲食をする場でなくとも、語り手と聞き手が打ち解けた雰囲気の中で科学について語る場をサイエンスカフェといっています。

「図書館サイエンス夜話」は鶴舞中央図書館があいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワークの協力を得て開催するサイエンスカフェです。あいちサイエンスフェスティバルの期間中、三夜にわたり開催いたします。皆様ふるってご参加ください。



名古屋市鶴舞中央図書館

名古屋市昭和区鶴舞
1-1-155

電話:052(741)9822

古紙パルプを含む再生紙を使用しています

第三夜

図書館サイエンス 夜話ブックリスト③

第三夜 平成27年10月28日(水)
「微・美・ビっとくる化石のお話し」
名古屋大学大学院
環境学研究科准教授
須藤斎 氏



あいちサイエンスフェスティバル@つるま

第三夜のブックリスト (講師のコメントつき)

★講師の著作関連本

・海底ごりごり地球史発掘 (PHPサイエンス・ワールド新書) 須藤斎著 2011
・0.1ミリのタイムマシン 地球の過去と未来が化石から見えてくる (くもんジュニアサイエンス 須藤斎著 くもん出版 2008

★微化石・プランクトン関連の本

1) ミクロな化石、地球を語る 微化石に刻まれた絶滅と再生 (知りたい!サイエンス) 谷村好洋著 技術評論社 2010

珪藻を主とした深海掘削研究の歴史と最新の研究成果が紹介されています。
日本列島の湖や周辺の海がどのようにできたのかも知ることができます!

2) 日本の海産プランクトン図鑑 第2版
末友靖隆編著 岩国市立ミクロ生物館監修 松山幸彦[ほか]著 共立出版 2013

恐らく世界初のDVD付プランクトン図鑑! 生きているプランクトンの映像を見たい方はぜひ!

3) ずかんプランクトン 見ながら学習調べてなっとく 清水洋美編著 日本プランクトン学会監修 技術評論社 2011

ゆるキャライラストと美しい写真を楽しみながら、「自分で採った」プランクトンを調べることができる! 顕微鏡を買ってみたいくなる一冊!

4) 生物の驚異的な形 エルンスト・ヘッケル著
小畠郁生日本語版監修 戸田裕之訳 河出書房新社 2009

19世紀、顕微鏡が発明された時代、貴族たちが集め、観察し、絵にした美術書ともいえる本。驚くべきほど詳細に、かつ美しいイラストの数々にため息が出るはず。こんな時代に生まれてみたかった!

5) 美しいプランクトンの世界 生命の起源と進化をめぐる クリスティアン・サルデ/著 吉田春美/訳 栗津智子/訳協力 河出書房新社 2014

小さいだけじゃない! 2mを超えるプランクトンがいる? 研究者目線からは、どうやって撮影しているのかすら分からない美しい写真が数々。

★地球環境を知るための本

1) チェンジング・ブルー 気候変動の謎に迫る 大河内直彦 著 岩波書店 2008

最先端を走る日本を代表する地球科学研究者による最新の研究成果とこれまでの歴史を、あたかもミステリを読むようなストーリー仕立てで紹介している現時点での最良の本の一つ。須藤的には研究だけでも充分すごいのに、文章までこんなに上手いとは…と嫉妬した本でもあります。

2) 植物が出現し、気候を変えた デイヴィッド・ピアリング/[著] 西田佐知子/訳 ←名大の准教授です みすず書房 2015

動かないからあまり人気がない(?)植物化石からここまで地球の環境変動史が分かる!
少し難しい部分もあるが、わくわくしながら読める一冊

3) 地球全史 写真が語る46億年の奇跡 白尾元理写真 清川昌一解説 岩波書店 2012

世界中を駆け巡った地球科学研究者だからこそ作れた地質写真集!
世界中を旅した気分! あらゆる時代をタイムトラベルした気分! なる一冊

★地球科学を題材にしたミステリ・フィクション小説(同じ作者のものですが、非常に読みやすいので推薦)

1) 死都日本 石黒耀著 講談社 2002
火山噴火の恐ろしさを感じている昨今、科学的描写も正確に、その性質や対策がエンタテイメントの一部として描かれている良書。
日本火山学会、日本災害情報学会などでも絶賛! 日本地質学会表彰

2) 震災列島 石黒耀著 講談社 2004
地震国日本に住む我々が読んでおくべき一冊 舞台は名古屋。 日本地質学会表彰

3) 昼は雲の柱 石黒耀著 講談社 2006
富士山が噴火したらどうする? どうなる? 考古学的要素も入った一冊。「富士覚醒」と改題され文庫本が出ています。